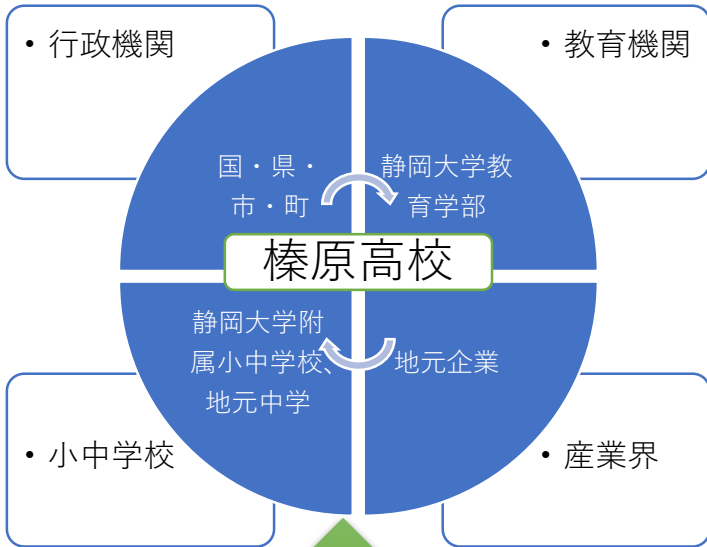


榛原高校を支えるコンソーシアム



榛原高校の目指す教育

グローバルリーダーの育成

地域についての認識を深めた**地域リーダー**の育成  
グローバルな視野を持つ**グローバルリーダー**の育成  
これからの時代に求められるスキルの育成

H A Fプロジェクト  
HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT

～地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方についての研究～

具体的な取り組み

- ファシリテーション研修
- 課題解決・協働学習
- 大学（研究室）訪問
- フィールドワーク（企業訪問）
- 主権者教育
- レポート作成、プレゼンテーション
- ESLプログラム
- 海外研修（シンガポール、台湾、アメリカ・シアトル サンフランシスコ）

榛原高校のチャレンジ (H27～)

- 海外研修の導入
- 理数科 シンガポール研修
- 普通科 台湾研修
- 海外修学旅行の導入へ

- 文科省委託事業への参加
- 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム

- 静岡県教育委員会事業への参加
- 魅力ある学校づくり推進事業
- アドバンススクール事業

牧之原市との連携事業

地域リーダー育成プログラム

地域のコミュニティの危機

- ・ 少子高齢化、人口流出
- ・ 耕作放棄地、空き家問題
- ・ 地域社会のグローバル化

人材の reflux

総合的な  
探究の時間の改革

文理融合型のカ  
リキュラム開発

社会教育機関と  
の連携

地域を支える若い担い手の  
育成は地域の願い

榛原高校と高校生への期待

本事業は、文部科学省委託事業（2019～2021年度）として実施します

ふりがな	しずおかけんきょういくいいんかい	ふりがな	しずおかけんりつはいばらこうとうがっこう
管理機関名	静岡県教育委員会	学校名	静岡県立榛原高等学校

## 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

### 1 管理機関・学校の概要

#### (1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：静岡県教育委員会

代表者名：木苗 直秀

#### (2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：静岡県立榛原高等学校学科：普通科専門学科 総合学科

校長名：渡邊昇司

### 2 取組内容

地域と世界を結ぶ人材育成の望ましい在り方について研究し、地域や世界を俯瞰して見ることのできるグローバルリーダーを育成するためのカリキュラム開発を行う。

産学官の連携により、生徒が設定した地域課題の解決のため、主体的且つ協働的に取り組める資質・能力を育成する。

新学習指導要領に向けて、地域人材や物的資源を有効に活用し、地域社会との連携を重視した実践的な研究を行い、学校設定教科「地域創造探究（仮）」（総合的な学習の時間）等、社会に開かれた学校（教育課程）のもと持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育成する。

少子高齢化やグローバル化など地域社会の変化を踏まえ、持続可能な地域社会の実現に向けた社会教育機関と連携した教育活動の研究・実践（コミュニティ・スクールの研究）をする。

### 3 管理・運営方法

#### (1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名	
静岡県立榛原高等学校	校長	渡邊 昇司
静岡県教育委員会	教育長	木苗 直秀
牧之原市	市長	杉本 基久雄
静岡県地域外交課	局長	長谷川 卓
静岡大学教育学部	教育学部長	江口 尚純
矢崎部品株式会社	管理統括部長	大石 斉
ふじのくに茶の都ミュージアム	館長	熊倉 功夫
島田掛川信用金庫理事	会長	市川 公
牧之原市民	ファシリテーター	原口 佐知子
牧之原市小中学校、静岡大学附属小中学校	牧之原市教育長	橋本 勝

#### (2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

コンソーシアム機関との研究委員会を設置し、研究協議を行い、将来の地域ビジョン・求める人材像の共有に加えてカリキュラム開発の方向性を確認する。

海外交流アドバイザー、地域協働学習実施支援員、静岡県地域外交課による情報交換について、ICT等を活用することにより、業務の負担軽減と効率化を図る。また、ポスターやパンフレットの作成、ホームページ等による広報活動を行い、地域社会の理解を得つつ共有を図る。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

管理機関	静岡県教育委員会
連携機関（以下の機関とは、既に連携実績がある）	
行政	外務省在シアトル総領事館（国）、静岡県地域外交課（県） 周辺市町（牧之原市、御前崎市、島田市、焼津市、菊川市、吉田町）
学術	静岡大学教育学部、青山学院大学経営学部、静岡産業大学情報学部
企業	TDK、矢崎部品、伊藤園、富士山静岡空港、大井川鐵道、はごろもフーズ 島田掛川信用金庫、小糸製作所ほか
海外	台湾矢崎股份有限公司、シンガポール国立大学、ヒルズ・インターナショナル・ ハイスクール（豪）
その他	静岡大学教育学部附属小・中学校（静岡・浜松・島田）、地元小中学校、 静岡県総合教育センター、（財）静岡経済研究所、静岡県中小企業家同友会

(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

役割	担当者	備考
海外交流アドバイザー	株式会社JTB静岡支店 教育営業課 望月 雄太（企業）	2020年度実施予定の修学旅行（マレーシア・シンガポール）の担当者。実社会プログラム海外（台湾）研修等においても、計画から実践までアドバイザーとしての役割を務めた。
カリキュラム開発アドバイザー	静岡大学教育学部 講師 島田 桂吾（学術）	実社会プログラムの社会参画推進委員（外部評価委員）を務めるとともに、県の魅力ある学校づくり推進事業においても外部評価委員を務めるなど榛原高校の教育実践に精通している。

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

役割	担当者	備考
地域協働学習実施支援員	牧之原市企画政策部地域振興課課長 田形 正典（行政）	地域リーダー育成プロジェクトの担当課長 2015年度から実施している連携事業の主担当で、牧之原市の地域連携事業の第一人者である。

(6) 運営指導委員会の体制

役割	役職	委員名
会長	静岡産業大学情報学部 学部長	堀川 知廣（学術、ICT活用）
副会長	青山学院大学経営学部 教授	亀坂 安紀子（学術、国際、金融・経済）
委員	静岡大学教育学部 教職センター長	菅野 文彦（教育、カリキュラム開発）
委員	静岡大学教育学部 准教授	渋江 かさね（教育、NPO）
委員	（財）静岡経済研究所 主席研究員	玉置 実（団体）
委員	株式会社伊藤園 静岡相良工場長	白井 実（学校評議員、企業）
委員	TDK株式会社国内人材開発統括部 人事部課長	渡辺 浩（企業）
事務局	静岡県教育委員会 高校教育課 静岡県総合教育センター（教育行政）	

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

ア 研究成果報告

- 全国サミットへの参加
- 校内成果発表会（3回）
- 牧之原市役所での模擬請願（学習成果報告）の実施（1年生）
- 地元信用金庫主催の「高校生の地方創生発表会」への参加（2年生）

静岡大学教育学部でのポスターセッションおよび発表の実施（2年生）

学校ホームページでの学習成果発信

#### イ 事業成果の検証

課題研究レポート等について外部評価（コンクールへの応募等）

運営指導委員会による評価、連携先教職員、企業関係者、行政関係者等による評価

生徒、保護者アンケートによる評価

本校職員による自己評価

#### （8）管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

魅力ある学校づくり推進事業

高校生の自発的学習状況等に関するアンケート

静岡県総合教育センターによるカリキュラム開発支援

サイエンススクール

コミュニティ・スクール事業への研究開発支援

#### （9）事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

グローバル人材育成に向け、自立可能なカリキュラムを開発する。また、生徒の海外研修、フィールドワーク、研究発表会の旅費及び講演会講師謝金等に必要な資金を支援するため、グローバル人材育成基金（仮称）の設立を行う。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	しずおかけんりつはいばらこうとうがっこう				②所在都道府県	静岡県
2019～2021	①学校名	静岡県立榛原高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 1年生 186人 2年生 204人 3年生 196人 理数科 1年生 40人 2年生 39人 3年生 32人 合計 697人	
普通科	186	28	20	0	234		
理数科	40	39	32	0	111		
⑥研究開発構想名	HAFプロジェクト HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT ～地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方についての研究～						
⑦研究開発の概要	ア 特色ある科目や課外活動によって、グローバルな視野と国際感覚の醸成を図る。 イ 課題解決型学習の実践により、協働的に学ぶ姿勢や批判的思考力を身に付ける。 ウ 外国語による対話力やディスカッションの力を身に付け、コミュニケーションスキルを向上させる言語活動の充実 エ 産学官連携協力体制を構築し、フィールドワーク等を通して地域の企業研究と働くことの意義についての学びを深める。 オ 新教育課程施行に向けての教育課程研究						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標 ・地域についての確かな理解と、グローバルな視野を併せ持つグローバルリーダーの育成 ・これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、能動的に学び続けることができる人材の育成 ・産学官の連携により、地域と学校が一体となって生徒を育成し、持続可能な社会システムを構築する。					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説 本校が立地する牧之原市では、人口減少が続き、2040年には、2015年比25%減、2060年には現在からおおよそ44%減少(27,500人)することが予測されている。また、同時に高齢化が進んでおり、このままでは地域の経済・社会の縮小均衡は避けることができない状況にある。逆に、牧之原市内の外国人の人口は、2016年1月末は、593人であったのに対し、2019年1月末には、1,068人とほぼ2倍となっている。外国人労働者の受入が積極的になれば、市内の外国人の人口は今後も増加傾向となる。地域内での外国人との文化交流や異文化理解の方策を考えていく必要がある。 この牧之原市周辺地域には茶業に加え、自動車産業をはじめとして、多種多様な製造業が発展している。加えて、県内唯一の国際空港である富士山静岡空港を有し、潜在的な成長力は十分に有している。 さらに、オリザニン(ビタミン)を発見した地域の偉人である鈴木梅太郎博士(牧之原市出身)は、本校の前身である東遠義塾に学び、地域のみならず世界の医療科学の発展に貢献しており、世界を俯瞰して捉えることのできるグローバル人材の育成についても本校の役割は大きい。 世界から日本を俯瞰し、地域の発展につながるキャリア教育は本校の責務であり、地域全体の願いでもある。行政機関(国、県、周辺市町)、地元企業、地元小中学校に加え、静岡大学教育学部、同附属小中学校と連携し、地域と世界を結ぶグローバルリーダーを地域とともに育成するための事業を推進したいと考えている。 なお、本校は近年以下の実践研究を文部科学省及び地元自治体の協力のもとに行ってきた。平成28・29年度、文部科学省委託事業「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム」、平成27年度から現在まで「地域リーダー育成プロジェクト」(牧之原市)、昨年度からは、静岡県教育委員会の「魅力ある学校づくり推進事業」。					

(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画

ア 総合的な探究の時間（学校設定教科「地域創造探究（仮）」）

グローバルリーダー育成のための課題解決型学習に係る学習プログラム開発と、学校設定教科・科目設置のための研究を行う。（2019年度入学生対象、学年進行）

学年	目標	主な活動内容（抜粋）
1	地域社会の課題を発見し、協働的に課題を解決する方法を考える。	ファシリテーション研修、牧之原市長出前授業、企業人講話、フィールドワーク、グループによる探究活動、学習成果報告書の作成、学習成果報告会（模擬請願）
2	地域と世界のつながりを理解し、批判的思考力を身に付ける。	定時制の外国籍生徒との文化交流、フィールドワーク、海外修学旅行、学習成果報告書の作成、学習成果報告会
3	自己の生き方・在り方について考え、グローバルリーダーとして、望ましい社会貢献の在り方について考える。	2年間の学習の振り返り、学習成果の発信、フィールドワーク（大学研究室訪問など）、自己の生き方・在り方についての探求と進路実現

イ 課外活動

課外活動として実社会プログラム及び部活動（英語／グローバル部）を実施する。また、牧原市の事業である地域リーダー育成プロジェクトに参加する。

⑧-2 具体的内容

	実社会プログラム	部活動	地域リーダー育成プログラム
目標	地域課題について、金融・経済の視点から分析を行う。また、国内／海外研修を実施し、より深い学びを行う。	学校内外で進行する国際化に対応するため、部活動において中核的生徒を育成する。	将来の地域社会を支える市民を育成する。
主な活動	日経 STOCK リーグレポートコンテスト、ESL プログラムへの参加、フィールドワーク、海外研修、学習成果報告	定時制課程在籍の外国籍生徒との交流、オーストラリアへの語学研修	牧之原市の企画する事業への参加（答志島サステイナブルキャンプへの参加など）

ウ 新教育課程施行に向けての教育課程研究

「社会に開かれた学校（教育課程）」の実現と、変化の激しい時代に対応した文理融合型カリキュラムの開発

エ 地域社会と学校の在り方に関する研究

地域社会の変容（少子高齢化、グローバル化）に伴い、持続可能な地域社会の実現に向け、社会教育機関等と連携した教育活動の研究・実践

(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制

静岡県教育委員会を中心としたコンソーシアム、外部有識者を中心とした運営指導委員会と連携しつつ、カリキュラム開発アドバイザーの指導・助言のもとカリキュラム開発を推進する。

(3) 必要となる教育課程の特例等

学校設定教科「地域創造探究」による総合的な探究の時間の代替

⑨その他特記事項

静岡大学教育学部、附属小中学校との連携協定締結（2019年7月16日）  
牧之原市との地域連携事業に関する協定の見直し（準備中）